

1 大会主題 自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成
～「考えの見える化」に着目した実践をとおして～

2 期日 令和4年11月18日(金)

3 会場 渋川市立三原田小学校

4 日程

13:10～13:25 13:30～13:55 14:00～14:45 15:00～16:20

| | | | | | | | |
|----|----|-----|----|------|----|-------|----|
| 受付 | 移動 | 全体会 | 移動 | 公開授業 | 移動 | 授業研究会 | 閉会 |
|----|----|-----|----|------|----|-------|----|

5 公開授業

| 授業学級 | 授業者 | 主題名 | 教材名 | 内容項目 | 研究会場 |
|------|-------|---------------|------------------|-------------------------|------|
| 3年1組 | 小村 実佳 | やっぱり、 やめよう | たからさがし | A-(1)善悪の判断、 自律、自由と責任 | 3年1組 |
| 5年1組 | 高津 亜弓 | 温かな思い | くずれ落ちた だんボール箱 | B-(7)親切・思いや り | 5年1組 |

6 主題設定の理由

道徳の授業で自分の考えを深めるには、自分自身の体験や感じ方や考え方などを想起させる必要がある。新型コロナウイルスの感染拡大により制約のある授業や行事を行うことになり、様々な経験が不足していることは否めない。そのため、道徳的諸価値を自分事として考えさせる工夫が必要である。そこで、自分の考えを明確にしたり他者の多様な考えに触れたりすることができる「考えの見える化」を手立てとした。「見える化」された考えをもとに、自分事として考えられる授業が「自己を見つめ、よりよく生きる児童の育成」につながると考え、本主題を設定した。

7 研究のねらい

道徳的諸価値について自分の経験やその時の感じ方や考え方と照らし合わせて考えさせ、それを「見える化」することを通して自己を見つめ、よりよく生きる児童の育成を目指す。

8 研究主題の解釈と説明

(1) 自己を見つめ、よりよく生きる

自己を見つめ、よりよく生きるとは「道徳的諸価値についての理解を基に、自分との関わり、つまりこれまでの自分の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めること」とする。

① 道徳的諸価値の理解

道徳的価値は、よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるものである。発達段階を考慮し、児童一人一人が道徳的価値観を形成する上で必要な内容項目を取り上げ、様々な問題場面に出会った際に状況に応じて自己の生き方を考え主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うために、道徳的価値の意義及びその大切さの理解が必要になる。

② 考えを深める

道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、体験やそれに伴う感じ方や考え方などを想起させたりして、道徳的諸価値を自分事として捉えられた状態を考えが深まるとする。

(2) 考えの見える化

本研究では、「考えの見える化」を自分の考えを明確にして可視化することと他者の考えを可視化することと捉える。考えの見える化を図るために、次のことを試みる。

- ① ICT機器の活用……子どもたちの意見の集約・共有
- ② 書くことで表現……自分が考えていることを書くことで明確にする
- ③ 道徳独自のアイテム……自分の気持ちを表す心情メーター、心情円盤、心情カードなど
- ④ 役割演技……言葉だけでなく、表情や動作を用いることで考えを可視化
- ⑤ 板書の工夫……子どもたちの意見を広げたり深めたりする

9 研究の実践

(1) 「自己を見つめ、よりよく生きる」を目指した授業構想

① 基礎研究

森岡健太著『おもしろすぎて授業したくなる 道徳図解』をもとに、価値項目ごとの授業の型や発問についての共通理解を図り、授業を構想する際に参考にした。

○教材の分析（価値項目に応じた授業の型）

- ・ Aの項目は「葛藤」から探す
- ・ Bの項目は「角度」を変えてみる
- ・ Cの項目は「所属意識」を大切にする
- ・ Dの項目は「心が動くところ」を考える

③ 授業構想シート

研究内容を意識した1時間の授業を考える際、授業構想シート（図1）を活用した。

③ 自分事として考えさせるための工夫

ア 事前アンケート

本時で扱う価値に関する自分の体験や感じ方や考えなどを想起させるアンケートを実施し、その結果を授業の始めに提示することで、その価値を今までの自分の経験と関連づけて考えさせた。

イ 終末の振り返り

資料を離れ本時で扱った価値について振り返る時に、今後どのようにしたいか考えさせる話型やワークシートを工夫し、振り返りを確保するため教材の提示や時間配分の検討をした。

ウ 問い返しと発問

児童の本音や内面を語らせるため、発問に対する反応を予想し反応に応じた問い返しを準備した。主発問を考え深く考えるために必要な補助発問や問い返しを精選するようにした。

(2) 「考えの見える化」に関わる工夫

① ICT機器の活用……子どもたちの意見を集約・共有、自分の考えの見える化

ア グーグルフォーム

事前アンケートを集計してグラフに表したり、記述内容を提示したりした。

イ 学習支援アプリ「オクリンク」、「ムーブノート」

- ・ 心情メーターや心情カード、心情円盤を撮影した物を送り、全体の傾向を提示
- ・ 発問に対して児童が語ったことを録画して送り、それを公開して意見の共有
- ・ 自分の考えを記述して送り、それを公開して意見の共有

道徳授業構想シート【例】

| | |
|--------------------|--|
| 1. 本時の道徳的価値 | A～(1) 尊厳の判断、自律、自由と責任 |
| 2. 学習指導要領 | 自由を大切にし、自律的に判断し、責任ある行動をすること |
| 3. 教材名 | 誰とどうのことだけど…… |
| 4. 納得解（児童に語らせたいこと） | ☆「責任を果たす」ために大切なこと ・ 恥の心を考え行動する ・ 誰か誰もの何かないことになりそうなのをほしくない ・ 誰かの人のことを考えて行動する |
| 5. 発問 | ○「たしかにおもしろかったのです」と思った時、なつみの記事を読めることへのあえ子の思いを心情円盤で表し、その理由をタブレットに書こう。 ○いやな思いをするのはいつでもか。 ○「もう一度考えてみよう」と思った時、なつみの記事を読めることへのあえ子の思いを心情円盤で表し、その理由をタブレット端末に書こう。 ○「責任を果たす」ために、大切なことをタブレット端末に書こう。 ○「責任」について、今までどう考えていて、これからどんな思いを大切にしていきたいですか。 |
| 6. 見える化 | 心情円盤 ムーブノート |
| 7. その他 | (資料活用) 音声のみ 資料分類提示 一筆刷機 (フィードバック) 心情円盤 (板書) 縦書き(横書き、工夫なし) (座席) 一筆刷機型(工夫なし) |

図1

② 書くことで表現 …… 考えていることを書くことで自分自身の考えを明確にして見える化

ア 道徳ノート・自作ワークシート

道徳ノートの質問と同じ場合にはそのまま、異なる場合にはワークシートに記述させた。

イ 学習支援アプリ「オクリンク」、「ムーブノート」

③ 道徳独自のアイテム …… 自分の気持ちを目に見えるようにして表現

ア 心情メーター

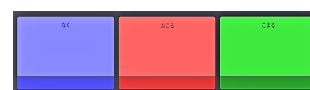
オクリンクに右のようなカードを用意して児童個々に送り、自分の気持ちに合うようにカードを操作して送らせ、提示した。メーターは、相対する2つの気持ちや行動の割合を表したり、一つの感情の強弱を表したりする内容のものとした。

こう太はどれくらい怒っていたのだろう



イ 心情カード

オクリンクに、右のようなカードを用意して児童個々に送り、その時の自分の感情に合うカードを送らせ、提示した。カードは、泣く・怒る・困る等の感情を色で分けた。



ウ 心情円盤

2色の円を半径で切って重ね合わせて2色の割合が自由に変えられる心情円盤を用意し、それを操作して自分の気持ちを表現させた。心情メーターと同様に相対する2つの気持ちや行動の割合や一つの感情の強弱とした。

④ 役割演技 …… 言葉だけでなく、表情や動作を用いることで自分の考えを可視化

登場人物になりきることで、登場人物の心の内が見える化した。児童同士で行うこともあったが、教師と行い児童の言葉を受けて問い返し、相手の気持ちを掘り下げて語らせた。また、演技を見せることで、演じている人の気持ちや、周りにいる人の気持ちを考えさせた。

⑤ 板書の工夫 …… 子どもたちの意見を広げたり深めたりする

見える化で特に意識したのは「言葉を短くまとめる」である。これは、人が一度に認識できる文字数が13文字前後と言われていることによる。

(3) 検討する観点を明確に示した授業研究会

参観の視点を示した授業参観シートにピンク（課題や改善点）とブルー（成果）の2色の付箋を付けて配布し、授業研究会までに成果と課題や改善点を記しておく。その際、検討する観点が明確になるように参観の観点の項目番号を記すようにした。授業研究会では、授業者による授業説明の後、4、5人のグループで項目ごとの成果と課題が明確になるよう授業研究会シートに付箋を貼って話し合い、全体で意見の共有を図った。今後の授業に生かすことを念頭において、成果と課題を今後に生かす話し合いにした。

10. 成果と課題

【成果】

- ・ICT機器を活用し考えの見える化をしたことで意見の共有が容易になり、多角的・多面的な考え方に触れることができた。
- ・書いて自分の考えを見える化したことは、価値を自分事として考えることにつながった。
- ・心情円盤や心情メーターを用いると全員が意思表示をすることができ、それを手がかりに対話をすることで、自分の考えを深められた。

【課題】

- ・ I C T機器を活用すると意見の交流をすることはできたが、実際に議論するような授業にならないことがあった。
- ・ 実態を考えた発問や児童の反応を想定した問い返しを行ってきたが、児童の本音を引き出したり、自分の気持ちを上手に表現させたりすることができないことがあった。

11. 授業実践

(1) 公開授業道徳科学習指導案 3年生

授業の視点

心情メーターと役割演技をもとに、意見を交流したことは、正しいことを自信をもって行う大切さや難しさを、自分ごととして捉えるうえで有効であったか。

- 1 主題名 「やっぱり、やめよう」 内容項目 A- (1) 善悪の判断、自律、自由と責任
- 2 教材名 「たからさがし」(出典：日本文教出版「生きる力 3」)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、小学校学習指導要領「特別の教科道徳編」の内容項目 A 主として自分自身に関することの(1) 善悪の判断、自律、自由と責任に基づくものである。

よいこと、正しいことについて、人に左右されることなく自ら正しいと信じることに従って、誠実かつ謙虚に行動することは人として重要なことである。特に、価値観の多様な現代社会を主体的に生きる上での基礎を培うためにも、よいことと悪いこととの区別が的確にできるようにすることは、人格形成において必要不可欠であると考えます。

中学年の児童は、今までの様々な学習や生活を通して、正しいことや正しくないことへの判断力が高まっていく時期である。しかし、自分の弱さに負けてしまい、正しいと分かっているながらも、なかなか行動に移せなかったり、悪いと分かっているながらも、周囲に流されてしまったりという結果になってしまうこともある。このような中学年の児童に対して、誰もがもっている自分の弱い面に気づかせたり、正しいことを行えなかったときの後ろめたさや、正しいことを行得た後の充実した気持ちを考えさせたい。そして、自分が正しいと判断したことは自信をもって行い、正しくないと判断したことは行わないようにする態度を育てたい。また、正しくないことを人から勧められたときに毅然とした態度で断ったり、正しくないと考えられている人を止めたりすることができる実践意欲と態度を育てたい。

(2) 児童の実態について

省略

(3) 教材について

本教材は、クラス遊びをするために、遊びを考える係の4人が「宝さがしゲーム」を提案することから始まる。休み時間に宝としてスーパーボールをうめることになった時、まことがりょうじの筆箱を砂場にうめてドッキリにしようとして提案する。ぼくは「やめたほうがいいんじゃないか」と言うが「今日の主役はりょうじくんといって、もりあげようよ」と乗り気である仲間を見て、だまってしまう。しかし、りょうじの顔が思い浮かび、ぼくが「やっぱりやめよう。」と思いついて伝え

るという内容である。

「やめたほうがいいんじゃないか。」と止めたにもかかわらず、周囲の雰囲気流されてだまってしまう場面は、誰もがもつ人間の弱さについて共感できるであろう。また、迷いながらもぼくが「やっぱりやめよう。」と言えた場面では、ぼくの気持ちの変化や気づきを考え、正しいことに自信をもつことの大切さや難しさについて考えを深めることができる教材である。

4 指導方針

○ねらいとする道徳的価値を自分自身との関わりで考えられるように、 구글フォームで事前アンケートをとっておく。結果から「とめたいけど嫌われるかも」などのような正しいと分かっているのに伝えるのに迷いがある考えを挙げ、めあてにつながるようにする。

○ぼくが周囲の状況からそれ以上言えなくなり葛藤している場面で、自分ならどうするかを心情メーターで示させる。「とめる」理由、「とめない」理由を挙げさせ、正しいことだと分かっているのに迷ってできない難しさに気づかせる。

○児童のつぶやきや考えをよく聞き、「ぼく」「レク系の友達」「りょうじくん」の視点からの考えが引き出せるように問い返しをしていく。

○ぼくが「やっぱり、やめよう。」と言った後の資料の一部の範読はせず、役割演技につなげる。

○役割演技では、「やっぱり、やめよう。」に続く言葉を言わせ、言っているときに考えたこと、言った後の気持ちを発表させる。見ている児童にも、見て考えたことを発表させる。

○「やっぱり、やめよう。」とぼくが言った場面で、りょうじくんの気持ちを考えただけでなく、レク系の友達に対して、正しいことをはっきりと伝える大切さにも気づかせる。

○振り返りでは、本時の内容が自分のこととして捉えられるように、今までの自分はどうか、これからどうしていきたいかなど自分と向き合っ考えるように声をかける。

5 本時の展開

(1) ねらい

迷いながらも「やっぱりやめよう」と正しい判断に戻ったぼくの行動や気持ちを考えることから、正しいと判断したことを自信をもって行おうとする態度を養う。

(2) 準備・資料

教師：アンケート結果、心情メーターのデータ、場面絵、資料（一部変更）、ワークシート

児童：タブレット端末、筆記用具

(3) 展開（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

| 学習活動と発問 | 時間 | 予想される児童の反応 | 支援・指導上の留意点 ◎研究上の手立て |
|-----------------------------------|----|---|--|
| 1 本時で扱う道徳的価値について事前アンケートから問題意識をもつ。 | 5分 | [近道をする] ・早く帰れるから。 ・ことわると嫌われるかも。 [ことわる] | ◎ねらいとする道徳的価値への意識付けをするために、グーグルフォームでアンケートを事前に行う。 |

| | | | |
|---|------------|---|---|
| <p>○なかよしの友達が「近道をして帰ろう」とさそってきました。あなたならどうしますか。</p> <p>◇友達にはっきりと「やめよう」と伝えられますか。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・家の人が心配する。 ・してはいけないから。[まよう] ・嫌われるかも。 ・「やめなよ」と言う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートでは項目がなかった「やめさせる」という意見を出させ、友達にやめようということ意識させる。 |
| <p>めあて 「やめよう」と相手に伝えるとき、大切なことはなんだろう。</p> | | | |
| <p>2 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>P.84の13行目まで</p> <p>3 道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <p>○ぼくはだまってしまいました。自分がぼくならどうしますか。心情メーターで表しましょう。</p> <p>ピンク…とめる</p> <p>青…とめない</p> <p>◇「とめる」時、「とめない」時には、それぞれだれのことを考えているのかな。</p> <p>◇自分では正しくないと思っているのに、本当にとめなくていいのかな。</p> | <p>10分</p> | <p>ピンク [とめる]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りょうじくんがかわいそう。 ・やりすぎ。 ・ふざけすぎ。 ・人の物をさわらない。 <p>青 [とめない]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪口を言われる。 ・仲間はずれにされる。 ・嫌われる。 ・誰も聞いてくれないかも。 | <ul style="list-style-type: none"> ・簡単に登場人物やあらすじについて確認してから範読する。 ・主人公の気持ちを考えながら範読を聞くように声かけをする。 ・最初は「やめたほうがいいんじゃないか」と正しい判断をしたこと、みんなの言葉を聞いているうちにそれ以上は言えなくなり、迷いが生じてきたことを捉える。 <p>◎心情メーターで考えを表し、オクリンクで提出させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出された心情メーターの理由や考えを聞いていく。 ・「とめる理由」「とめない理由」を考えさせることで、頭の中では正しい判断をしながらも、毅然とした行動に移すことを迷っているぼくの気持ちに共感させる。 |
| <p>4 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>P.85の1行目まで</p> <p>○りょうじくんのどんな顔が思いうかんだのかな。</p> <p>◇りょうじくんのことだけ考えたのかな。</p> <p>◎「やっぱりやめよう。」のあと、自分が</p> | <p>20分</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・悲しい顔 ・困っている顔 ・レク系の友達に正しいことを伝える。 ・りょうじくんが悲しむからやめよう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「やっぱり」という言葉に注目させ、ぼくが、りょうじくんの気持ちを考えたり、「レク系の友達」のために正しいことを伝えようと考えたりしたことで正しい判断に戻ったことを捉えさせる。 <p>◎役割演技を通して、ぼくの正しいことを伝えたいという思いを引き出す。</p> |

| | | |
|--|---|---|
| <p>ぼくだったら、続けてどんなことを伝えられますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 <p>◇どんなことを考えながら言いましたか。言った後はどんな気持ちでしたか。</p> <p>◇言い返されたり、もう一度誘われたとき、どんなことを考えましたか。</p> <p>◇見ていて、どんなことを考えましたか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・やりすぎだよ。 ・ふざけすぎだよ。 ・いじめになっちゃうからやめようよ。 ・はっきりと言って、すっきりした。 ・心配だったけど、言えてよかった。 ・勇気を出した。 ・正しいことを絶対伝える。 ・人に流されない。 ・相手のことを考えた。 <ul style="list-style-type: none"> ・やめようという気持ちが伝わった。 ・はっきり言えてすごいな。 ・自分は言えるかなと思った。 ・相手にはっきり伝える。 ・勇気を出して相手に伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教師…みんな役としてリードする。「さあ、急いでうめにかかないと次の時間に間に合わなくなるぞ。」と言う。 ・児童 A…「僕」役「やっぱり、やめよう。○○○○○○。」 ・教師は、児童の言葉に対して問い返し、児童の正しいこと伝えたいという思いを引き出す。 ・拳手をした児童を指名していくが、記述の様子を見取り、意図的な指名も行う。 ・見ている児童にも、演技の後、どのように感じたか答えてもらうことを伝えておく。 |
| <p>5 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてをもう一度考える。</p> <p>○相手に伝えるとき、大切なことはなんだろう。</p> | <p>5 分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで正しいと思っているのに言えないことがあったけど、思い切って勇気を出して友達にだめなことをやめさせたい。 ・今までは、人にまかせていたことがあったけど、周りの人のことをよく考えて行動すると、自分も周りもいい気持ちになることが分かった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今までの板書、役割演技を振り返りながら、改めて正しいことを相手に伝えるとき、どんなことが大切かを考えさせる。 ・実践の難しさについても触れる問い返しをすることで、難しいけど、どのように乗り越えればよいのかも考えさせたい。 |
| <p>6 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> <p>○「やめよう」と相手に伝えるとき、今までの自分はどうでしたか。これから大切にしたいことはどんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 | <p>5 分</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分はどうだったか、これから大切にしたいことはどんなことかを考えさせたい。 ・書いた内容を見て、意図的に指名をする。みんなの前で発表することで実践意欲を高める。 |

(4) 評価の視点

- 自分が正しいと判断したことを行うこと、正しくないとと思われることをしている人を止めることとの大切さや難しさ、その良さについて多角的多面的に捉え、考えることができたか。
- これまでの自分を振り返りながら、正しいと判断したことは自信をもって行うことについて自分なりに考えることができたか。

(2) 公開授業道徳科学習指導案 5年生

授業の視点

心情円盤を活用して考えを伝え合ったり、補助発問や問い返しを取り入れたりしたことは、多面的・多角的な意見を引き出し、思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を高めるのに有効であったか。

- 1 主題名 温かな思い 内容項目 B- (7) 親切・思いやり
- 2 教材名 「くずれ落ちただんボール箱」(出典:日本文教出版「生きる力 5」)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、小学校学習指導要領「特別の教科 道徳編」の内容 B- (7) 親切・思いやり〔第5学年及び第6学年〕「誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること」に基づくものである。思いやりをもち親切にすることは社会生活を営む上で大切な価値であり、人間のごく日常的な道徳的実践の基盤ともなる心情である。思いやりとは、相手の置かれている状況やそのときの心情を想像し、それに共感して生じる気持ちであると考えられる。親切とはそれを行為に表したものであり、親切の行為の背景には思いやりの気持ちが必ず必要である。この学習を通して、自分の経験も振り返りながら、親切にする上で大切なことは何かを考えることで、誰に対しても、相手の立場になって思いやりの心をもち、親切にしようとする心情を高めたい。

(2) 児童の実態について

省略

(3) 教材について

本教材は、ショッピングセンターで「わたし」と友達の友子さんが、通路に積んであった段ボール箱を男の子が崩してしまったところに遭遇するという内容から始まる。男の子が迷子にならないように、男の子のおばあさんの代わりに段ボール箱を積み直していると、事情を知らない店員が来て、「わたし」たちが崩したと間違えられ注意を受ける。その後、戻ってきたおばあさんにお礼を言われるが、店員には誤解をされたままその場を立ち去る。後日、学校に手紙が届く。校長先生が全校の前で紹介したその手紙は、店員からで、事情を知らず一方的に怒ったことのおわびと感謝の手紙だったという話である。

本教材を通して、親切な行為のよさや難しさといった価値理解や人間理解について考えを深めさせると共に、おばあさんにお礼を言われた時の「わたし」の気持ちを考えることを通して、親切にしたことがたとえ周囲に理解されなかったとしても、その行為が自己充実感や価値ある行為になることに気づき、相手の立場に立った親切について考えさせることができる教材である。

4 指導方針

- 導入では、本時で扱う道徳的価値への方向付けをするために、グループフォームで行ったアンケート結果を提示する。
- 「わたし」の複雑な気持ちを考えさせるために、教材文を前半と後半で分割し、教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する場面の時間を十分確保するために、事前に資料を一読する機会を設ける。
- おばあさんからお礼を言われた時の「わたし」の気持ちを見える化するために、心情円盤を用い、学習支援アプリ「オクリンク」を使って共有する。

- 自分の考えを明確にするために、書く活動を取り入れる。また、多様な考えに触れ、考えを広めたり深めたりするために、書いたことをペアで伝え合ったり、全体で共有したりする。
- 「わたし」の複雑な気持ちについて、多面的・多角的な意見を捉えさせるために、補助発問をしたり、児童の意見に対して問い返しをしたりする。

5 本時の展開

(1) ねらい

たとえ相手に分かってもらえなくても、相手のことを考えてしたことは親切であることに気づき、思いやりの心をもって親切にしようとする心情を高める。

(2) 準備 教師：-googleフォーム、オクリンク、場面絵、心情円盤、前半資料

(3) 展開 (○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

| 学習活動と発問 | 時間 | 予想される児童生徒の反応 | 支援及び指導上の留意点 ◎研究上の手立て |
|---|-----|--|--|
| <p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「親切」「思いやり」の意味を確認する。 ・親切に関するアンケート結果を提示する。 <p>○親切にしたいけれど、親切にできなかったことはありますか。また、それはなぜですか。</p> <p>○親切な行動をとったことがありますか。また、それはどんなことですか。</p> <p>◇本当に親切なのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の問題意識を基に学習のめあてを設定する。 | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしい。 ・勇気が出ない。 ・苦手な相手。 ・お節介になると思った。 ・自分がやらなきゃいけないことがあった。 ・物を拾った。 ・手伝った。 ・席を譲った。 ・ドアを開けてあげた。 ・片付けてあげた。 ・答えを教えてあげた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">めあて 本当の親切とは何だろう。</div> | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを事前に行う。 <p>◎フォームで行ったアンケートの結果を黒板に提示することで親切についての経験を共有し、めあてにつなげる。</p> |
| <p>2 教科書の教材文の内容を確認する。</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <p>◎おばあさんにお礼を言われ「いいえ、いいんです。」と言って立ち去ったわたしは、どんな気持ちだったで</p> | 25分 | <ul style="list-style-type: none"> ・うれしい。 ・手伝ってよかった。 ・まだイライラしている。 ・悔しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料は事前の一読させておき場面絵を活用しながら登場人物と状況を簡単に確認する。 <p>◎心情円盤を用い、自分の考えを表し、自分の考えを明確にするために、書く活動を取り入れる。</p> |

| | | | |
|--|-----|---|--|
| <p>しょう。</p> <p>◇主人公は、手伝わなければよかった。という気持ちは無くなったかな。</p> <p>・気持ちを心情円盤で表し、その理由を書いて、伝えましょう。</p> <p>◇叱られたのに、主人公は、どうして嬉しいのかな。</p> <p>◇お礼がほしかったのかな。</p> <p>◇誤解されるなら親切にしないでいいのでは。</p> <p>◇主人公が、本当のことをおばあさんに伝えなかったのはなぜだろう。</p> <p>◇それは、誰のことを考えてした行動ですか。</p> <p>・教材文の続きの範読を聞く。</p> <p>○手紙をもらって、どんなことを思ったでしょう。</p> <p>◇手紙（お礼）がなかったら、二人の行動は、親切ではないのかな。</p> <p>◇手紙が来なかったら、わたしは、これからは親切にしないのかな。</p> <p>◇ショッピングセンターにいた人で嬉しい気持ちになったのはわたしだけですか。</p> | | <p>赤【手伝ってよかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お礼を言われて嬉しい。 ・迷子にならなくてよかった。 ・役に立てた。 ・助けてあげられた <p>青【手伝わなければよかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叱られてショック。 ・災難だ。 ・叱られて嬉しくない。 ・嫌な思いをした。 ・腹が立つ。 <p>・店員さんに分かってもらえて嬉しい。</p> <p>・やっぱり手伝ってよかった。</p> <p>・よいことをした。</p> <p>・これからも困っている人がいたら助けたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで自分の考えを伝え合わせる。 ◎心情円盤をオクリンクで共有することで、自他の考えが見える化する。 ・全体で意見を発表させる。 ・記述内容や交流の様子から意図的な指名も行う。 <p>・教材文の続きを範読する。 (126ページ17行目から最後まで)</p> <p>・手紙が来なくても、わたしと友子の行為はとても素晴らしいことであることを捉えさせる。</p> |
| <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてをもう一度考える。</p> <p>○本当の親切とは何ですか。</p> | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことをよく考えてその人に合ったことをすること。 ・自分から進んでやる。 ・勇気を出して行動する。 ・親切をしても相手から見返りを求めない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果や板書を活用しながら、改めて「親切」について考えさせる。 |
| <p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> | 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ・今までは親切にできないときもあったけれど、これからは、もっと相手の立場を考えて行動し | <ul style="list-style-type: none"> ◎本時の学習を振り返り、よりよい自己の考えや生き方への思いや願いを明確にす |

| | | |
|--|--|------------------|
| ○親切について、今までの自分はどうか、これからどのような気持ちを大切にしていけるか考えよう。 | ていきたい。 ・誰に対しても、きちんと相手の気持ちを考えて行動したり助けたりしたい。 ・今までは、恥ずかしくて声をかけられなかったけど、勇気を出して行動したい。 | るために、書く活動を取り入れる。 |
|--|--|------------------|

(4) 評価の視点

- 主人公の心の葛藤や気持ちを考える場面で、相手の立場に立った親切について、多面的・多角的に考えることができたか。
- 本時の振り返りの場面で、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることについて、自分自身との関わりで考えたか。

12. おわりに

今年度の大会は3年ぶりに参集型で行った。新型コロナウイルス感染症の収束が見られない状況のため、参加者を渋川市近隣の地区に絞り実現にこぎ着けた。研究テーマについては、道徳本来の学びにGIGAスクール構想を取り入れたものであり、考えの見える化について成果が得られたもののICT機器の有効で適切な活用についてはまだまだ道半ばであり課題となった。

今後の群馬県内の道徳教育の研究の更なる発展と研究の成果の共有を心より願い、結びとする。